

# すくすく たけのこ



## “わたしが育つ” “子どもが育つ”

オリンピック・パラリンピックでの選手の活躍は、私たちに夢と感動を与えてくれます。でも考えてみると、車や飛行機などの移動手段が発達した現代に、100分の1秒を縮めたり、1センチの記録の伸長をめざしたりすることに、“なぜ人間は挑むのか”という疑問も起こります。その答えは、スポーツのもつ特性、“人間の可能性を追求する”という点に関係するのかも知れません。そこに、私たちは共感し、感動を覚えるのでしょうか。



さて、スポーツと言えば「文武両道」という言葉を思い浮かべます。昔からこの四字熟語は、学問と武芸の両方に努め、優れていることを指してきた言葉です。現代では、**勉学とスポーツの両方で優れている人**に対して用いられ、学校などの教育現場でもよく使われる言葉のひとつです。

医学博士・解剖学者として有名な養老孟司さんという人がいます。この養老さんが「文武両道」について、興味深いことを述べています。

「本来の文武両道の“文”とは、**脳に入るほう**でいわゆる『**知育**』です。“武”というのは、**出すほう**で、つまり『**体育**』です。『**文武両道**』とは、**本来、入力した結果を身体で動かすことによって新たな入力を得る、という意味だったのでしょう。**ところが、いつごろからか、勉強も運動もできる、というように、別々のものにしてしまったのです。」  
(『バカにならない読書術』より)

「文武両道」という意味が、二道に挑む“**横の関係**”から、入力が出力につながり、次の入力を生むといった“**循環の関係**”にあるという**「横から縦」**への見方の転換です。両方に挑戦するといった少しプレッシャーのかかる**重いイメージ**から、「**インプット⇒アウトプット⇒インプット**」と、**入力と出力を交互に繰り返しながらリズムよく進む**という**ダイナミックなイメージ**へと変わっていきます。入力は、人の視・聴・嗅(きゆう)・味・触の五感を伴った感覚であり、**何かを感じることを入力(インプット)**です。**出力(アウトプット)**は、単に身体を動かすということだけではなく、**コミュニケーションも含んだもの**となります。



私たちも身近で子どもを見ていると、たしかにこの“**循環しながら進む**”ということを感じます。身体を思い切り動かし、よくおしゃべりした後の子どもの表情は生き生きしています。逆に、雨の日や天気がすぐれない日が続き、外で遊べなかったりすると調子が悪そうです。こういうときは、上手く「**学ぶ(インプット)**」できないことが多いと感じます。

本来、子どもは、「**知りたい!**」「**学びたい!**」という**すごいパワーの持ち主**です。花だったり、虫だったり、珍しいものや新しいものに出会うと子どもは**必ず反応**します。その時、子どもは大人の方を振り返ったり、声に出して訊いてきたりします。

**この反応こそ、子どもが出力している時であり、この瞬間が大事**なのです。「きれいだね」「不思議だね」「すごいね」と、わたしたちが、**笑顔で“共感”を示すと、パッと顔色が変わります**。これが次のインプットに通じます。



創業者池田先生も、「**お子さんが新しいものに触れた時、その驚きや反応に対して、親と一緒に感動してあげられるか、それとも無関心に聞き流してしまうかで、その後の人生の幅が違ってくる**」と述べられています。

お父さんやお母さんが、一緒になって活発に身体を動かす遊びを行い、その時の子どもの**言葉やつぶやきに心を傾けて聞き入ってあげる**ことで、子どもが弾んで話し、**親子のやりとりが連続**していきます。このように、**共感しながら応答し、楽しい会話につなげていく**ことが、循環しながら進む「文武両道」につながっていくと思うのです。



日本には、「**もの**」と「**こと**」という言葉がありますが、子どもは、本来「**もの(物)**」より「**こと(事)**」が大好きです。つくること、遊ぶこと、一緒にいることなどです。私たちが子どもに与える最上のもは、子どもとの**時間や感覚を「共にする」「共有する」**ことです。でもそれは、時間をたっぷ

りかけて、どこか遠くに旅行するとか、テーマパークに行くことが大事なのではなく、親子で散歩をしたり、公園で遊んだり、一緒に家事をするなど、**普段の何気ない「時間」を互いに共有**することが、かけがえのないことなのです。



あるお母さんは、「**共感の“あいうえお”**」という言葉をお大切に、子どもと関わっているとお聞きしました。ここで紹介しましょう。

「あ」は、「ありがとう」。  
「い」は、「いいね」。  
「う」は、「うれしいね」。  
「え」は、「えらいね」。  
「お」は、「おもしろいね」。



こんな言葉をかけられた子どもの嬉しそうな表情が目に見えます。

今日、**人格形成にもっとも重要だと言われているのが、就学前の時期**です。子どもは自分の置かれている場で、ほとんど記憶にもとどめないままにこの数年を過ごします。しかし、そうであればこそ、この時期は、どの子も**親や周りの人たちからの愛情を存分に受け取ってほしい**と思うのです。そして、「**心地よい循環のリズム**」を感じ取ってほしいと願います。

子どもの心の奥底にある無意識という大地に、その記憶は蓄えられます。そして、蓄えられたその記憶は、地下に深くに埋もれた石炭や石油のように、後にその子の生涯を通じて、**人生を生き抜く「生きる力(エネルギー)」となっていく**と信じます。(晃)

\*写真は、撮影のため、マスクを外しているものもあります。

